

労働時間削減への取り組み

2011年3月2日
キヤノン株式会社
人事部 狩野 尚徳

1. 会社紹介



会社概要

- 設立 1937年8月10日
- 本社所在地 東京都大田区下丸子3-30-2
- 従業員数(単独) 26,019人
- 従業員数(連結) 197,386人
- 売上高(単独) 2兆3,170億円
(連結) 3兆7,069億円

- 事業内容

オフィスイメージング機器(複写機等)

コンピュータ周辺機器(プリンター等)

ビジネス情報機器(電子辞書等)

カメラ・ビデオカメラ

光学機器その他(半導体用露光装置等)

共生

世界の繁栄と人類の幸福のために貢献すること
そのために企業の成長と発展を果たすこと



行動指針

- ・三自の精神

自発・自治・自覚の三自の精神を持って進む

- ・実力主義

常に、行動力・専門性・創造力・個性を追求する

- ・国際人主義

異文化を理解し、誠実かつ行動的な国際人をめざす

- ・新家族主義

互いに信頼と理解を深め、和の精神をつらぬく

- ・健康第一主義

健康と明朗をモットーとし、人格の涵養につとめる



2. 労働時間の削減に向けた取り組み

効率的な働き方の推進



**永続的に成長できる会社と
豊かで充実した人生を実現すること**

具体的施策

①時短に向けた制度

- ・年間所定労働時間:1800時間(7.5時間×240日)
- ・休暇制度(リフレッシュ休暇制度・フリーバカンス制度)

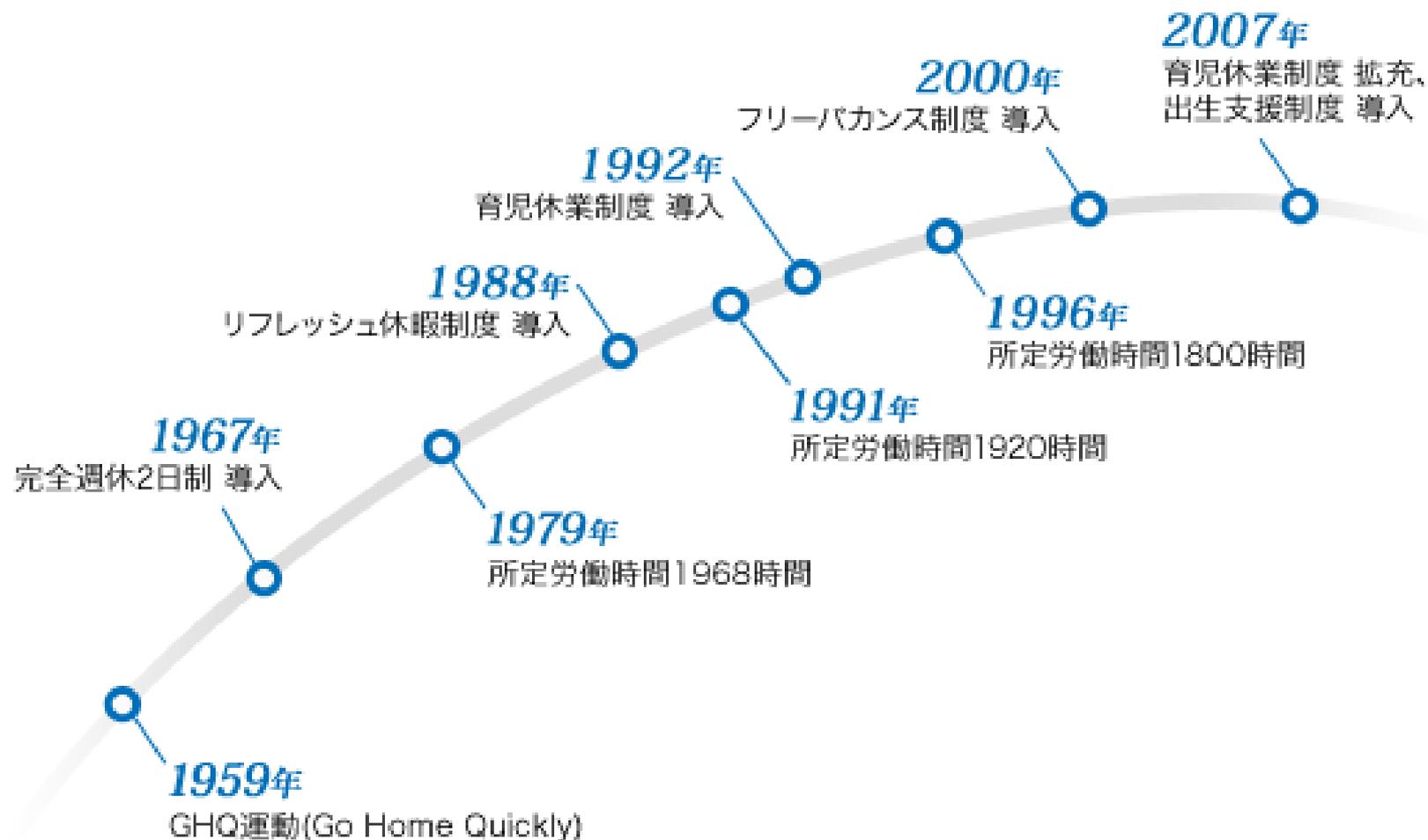
②働き方改革

- ・「仕事と生活の調和推進プロジェクト」への参画
- ・「ノー残業デー」の徹底
- ・労使委員会(ワーク・ライフ・バランス推進委員会)の設置
- ・新任管理職研修
- ・CKI(Canon Knowledge-intensive staff Innovation)活動

③労働時間管理の徹底

- ・部門への実績レポートの配布
- ・管理職への説明会の実施
- ・勤務管理システムによる警告メール

労働時間・休日・休暇に関する取り組み



「仕事と生活の調和推進プロジェクト」への参画

＜概要＞

- ・2007年12月、「ワーク・ライフ・バランス推進官民トップ会議」において、憲章及び行動指針が策定された。
- ・具体策として、日本を代表する企業10社が選定され、2008年4月より「仕事と生活の調和推進プロジェクト」が実施されている。

＜参画企業10社＞

- | | |
|---------|---------|
| ① 電通 | ⑥ 日産自動車 |
| ② 全日空 | ⑦ 三井化学 |
| ③ 日立製作所 | ⑧ 鹿島建設 |
| ④ 住友商事 | ⑨ 高島屋 |
| ⑤ 大和証券 | ⑩ キヤノン |

いい仕事しよう。いい人生しよう。

社長も本気で取り組みます。「仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）」。

あなたは最近、働くために生きていませんか。

今、日本では「仕事に追われ疲れている」「仕事と子育てや家族の介護との両立に悩んでいる」「仕事が終わって帰った後、家族活動に参加する時間がない」など、仕事と生活の間で悩みを抱える人が多く、社会全体が「ファンダシズ」な状態です。厚生労働省をはじめ関係各府省から、「仕事と生活の調和」を推進するプロジェクトを結成。まずは各社の経営者を見て、経営トップ自らが、今年初めに社長挨拶で発表しました。日本の働き方、生きかたを変える契機が、ここから始まります。仕事をすることが、それぞれの生きがいにつながる。仕事以外の時間も充実させることが、明日への活力になる。その契機が、家族とあなた自身の幸せにつながる。そんな「仕事と生活の調和」、一緒に考えていきましょう。

このプロジェクトの参加企業はこちら



厚生労働省

http://www.ehpa.go.jp

http://www.mhlw.go.jp

ワーク・ライフ・バランス

「ノー残業デー」の徹底

- ポスターによる啓蒙
- ノー残業デーの放送、消灯・空調停止の徹底
- キヤノンライフ(社内報)での広報活動
- 各地区での啓蒙と労働時間削減の取り組み



「2008年4月、キヤノン厚生労働局が主催する「仕事と生活の調和推進プロジェクト」のモデル企業に選定されました。

しゅっかり働き ゆっくり休む

まずはノー残業デーの徹底から

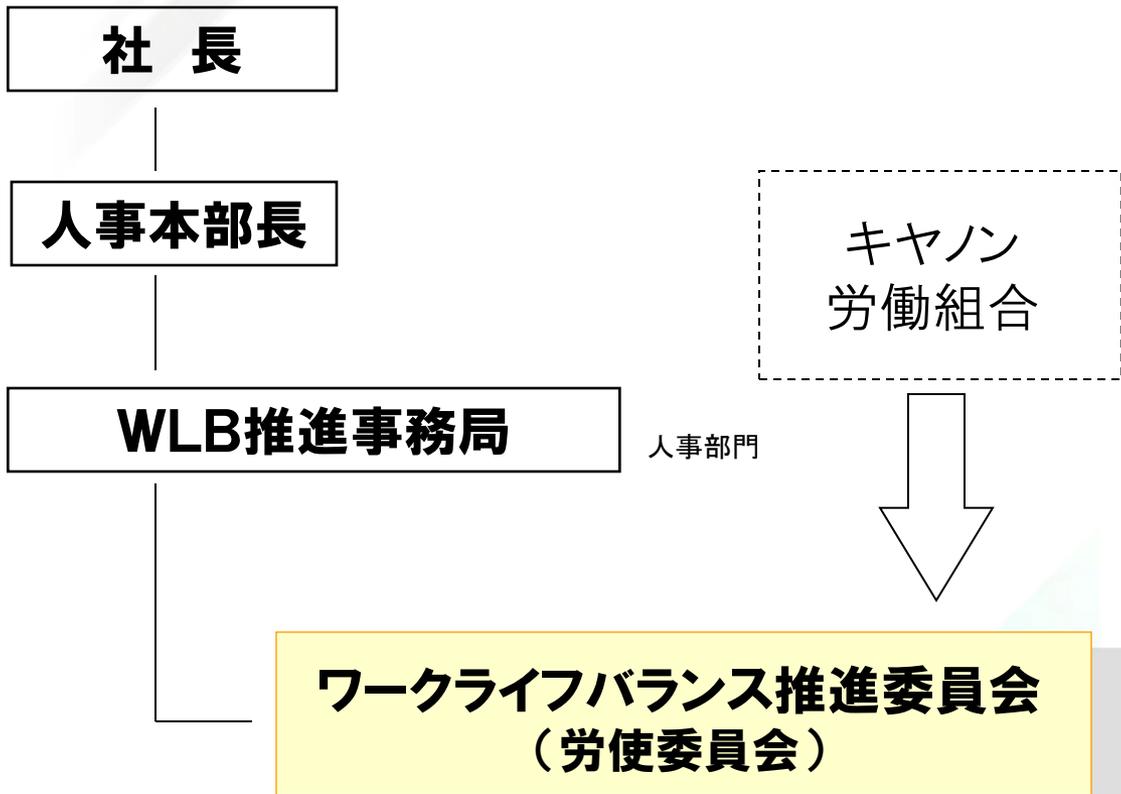
一語も空欄を空けてお読みください。JUSRO、キヤノン株式会社「働き方改革」の推進を4年間継続するだけでなく、キヤノンの「Work-Life Balance」を推進しています。

Good life, after five!

総務本部・人事本部

労使委員会の設置

「ワーク・ライフ・バランス推進委員会の設置」



時間力を高めよう！

「ワーク・ライフ・バランス」は、誰もが実現したはず……。時間の使い方を直し、さまざまな可能性を広げてみませんか？

もっと時間を有効に使うために！例えば…

- 時間を決める。**
今朝、今日やることを整理して取り掛かる時間を決めてみる。
- 時間を増やす。**
メールではなく、できるだけ直接話す時間を増やしてみる。
- 時間を守る。**
会議や打ち合せの開始・終了時間は必ず守る。
- 時間を探す。**
1日を振り返り、減らせる時間を探してみる。
- 時間をもらう。**
上司から、仕事の課題を一掃に解決するための時間をもらってみる。



しっかり働き ゆっくり休む

ワークライフバランス推進委員会

(委員会にて発行した社内ポスター)

新任管理職研修

コンプライアンス

企業安全保障・規則・規律
労働法規・労使協定
規制時間・サービス残業
職場規

業務管理

部下を通じた業務遂行
進捗管理・時間外指示
成果管理・負荷配分
生産性向上

報酬・コスト

時間外手当
仕事の量と質・人事評価
人件費・経費削減

労働時間 管理

安全・健康

心身の健康確保
安全配慮義務
過重労働・過労死
深夜業・超過残業者健診

ワークライフバランス

仕事と生活の調和
ノー残業デー・総労働時間
有給休暇・フリーバカンス
育児/介護休業・短時間勤務

部門への実績レポートの配布

①目的

- ・職場での労働時間実績の把握
- ・職場による主体的な労働時間管理の徹底

②配布先

- ・各事業本部長

③配布資料

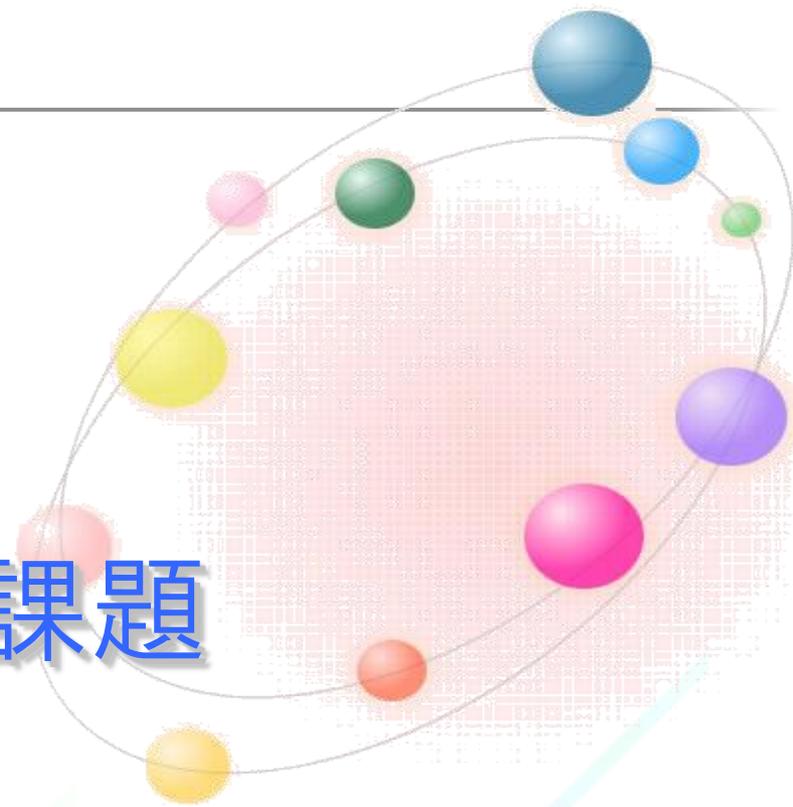
- ・時間外労働(平均)時間・深夜退門状況一覧・特別延長時間申請者数・特別延長時間申請回数 等

管理職への説明会の実施

- ①実施時期：2010年3月
- ②対象：全管理職
- ③内容：労働基準法の改正の趣旨とキヤノンの対応、
適正な労働時間管理について 等

- ①実施時期：2010年11月
- ②対象：全管理職
- ③内容：適正な労働時間管理について(再徹底)
労働時間の今後の方針説明 等

3. 今後の課題



今後の課題

①いわゆるホワイトカラーの働き方はどうあるべきか
(制度の整備？意識改革？風土醸成？)

②人事評価・処遇との連携
(仕事のできる人に仕事が集まる？)

ご清聴ありがとうございました。

Canon

make it possible with canon
